

子どもへの司法面接

——考え方・進め方とトレーニング

仲 真紀子 編著

2016年9月発売／374頁／本体2900円＋税
A5判／並製



編集
担当者
から

司法面接という言葉が近年注目を浴びています。司法面接とは、主に虐待など事件の被害者となってしまった子どもから、証拠として使用しうる正確な情報を聴取することを目的とした面接手法のことです。聴取の際に、子どもの心理的負担を最小限にすることも重要な点になります。子どもは記憶の変容が起こりやすいなど、認知能力が大人より低く、また精神的にも脆弱であり、何度も事件のことを聴かれることで、心理的な負担が重くなってしまいます。こういったことを防ぐために司法面接が開発されてきました。

本書は、司法面接の概要から、進め方まで学ぶことができ、実際に読者が司法面接を行うことができるようになるトレーニング本にもなっています。第Ⅰ部では、なぜ司法面接が必要なのかを、実証的知見に基づきつつ解説します。第Ⅱ部では、司法面接の実際の進め方や注意点を、具体例を提示しながら紹介しています。

児童相談所職員や家裁調査官、法曹などにとって、司法面接の知識は必須となりつつあります。直接司法面接にかかわらない方にとっても、より一般に適切なコミュニケーションをいかにすべきか、といった観点から学べることも多いと思います。ご一読ください。(岡山)

Index



「司法面接」の理論も実践も！

第Ⅰ部 司法面接の基礎知識

- 第1講 司法面接とは何か
- 第2講 司法面接の歴史と必要性
- 第3講 記憶の種類と発達
- 第4講 誘導と被暗示性
- 第5講 子どもの人物識別
- 第6講 面接法研究
- 第7講 司法面接の展開
- 第8講 研修の取り組みと効果

第Ⅱ部 司法面接研修

- 第9講 司法面接の概要と目的
- 第10講 司法面接の要
- 第11講 面接の構造と手続き
- 第12講 面接の計画
- 第13講 補助証拠
- 第14講 難しい質問への対応
- 第15講 性的な内容の聴取
- 第16講 話さない子ども
- 第17講 質疑